

オホーツク管内教育実践表彰

オホーツク教育局は、令和6年度における管内教育実践表彰の受賞者を決定した。一般表彰は、2団体及び4名、初任段階表彰は1名、若手教職員表彰は3名の受賞となった。

昭和44年から実施しているもので、管内の学校教育や社会教育の充実・振興を図ることが目的。教育活動などの振興に大きく貢献したと認められる個人や団体をオホーツク教育局長が表彰している。

受賞団体及び個人の概要は次のとおり。

1 一般表彰

<団体>

(1) 北見市立三輪小学校

当該校は、道教委「学校力向上に関する総合実践事業」において、平成30年度から実践指定校として、令和2年度からは中核校として、包括的な学校改善に取り組み、特に学力向上において顕著な成果を出している。

令和5年度から令和6年度まで著名な外部講師を招聘した管内公開研究会を開催した他、道北ブロック教育指導監訪問において実践発表を行い、取組の成果を管外へ発信した。

また、令和5年度、道教委「成果普及資料」に2つの部門で成果が掲載されたほか、令和6年度「学校情報化優良校」（日本教育工学協会）に認定され、取組が全国に紹介されるなど、広く教育成果をあげている。

(2) NPO法人丸瀬布昆虫同好会

当該団体は、地域住民らが「昆虫で町おこし」を掲げて昭和58年（1983年）に同好会として結成し、平成28年（2016年）からはNPO法人として活動している団体である。

昭和60年（1985年）からは、廃屋を改修した展示施設である「昆虫の家」を運営し、その後継施設である「丸瀬布昆虫生態館」が平成9年（1997年）に完成した際は、施設内における展示資料の作成から展示資料の採集に至るまで、自主活動を通じて全面的に行政をサポートした。

また、町内小学校の校庭に「むしの家」を自主設置し、教材として活用するとともに、昆虫学習を通じ、故郷の環境についても考えを深めるきっかけ作りに繋げている。

さらに、虫に触れない、虫嫌いな人が多い現代において、子ども向けの自然体験教室や移動昆虫教室を開催するなど、地域に根ざした活動を続け、地域資源を活かした自然環境教育に成果を上げている。

<個人>

(3) 紋別市立紋別小学校 松野 裕也 教諭

当該教諭は、令和元年度から令和3年度までは、授業改善推進チーム活用事業における「授業改善推進教員」として、令和5年度からは、その後継事業である、新しいかたちの学びの授業力向上推進事業における「新しいかたちの学び推進教員」として、教育課程の充実に努めている。

新しいかたちの学び推進教員としては、紋別市内各校へ日常的にICT活用についての情報発信を行うほか、オホーツクICT活用授業改善研修会にて実践発表を行い、端末を活用した授業改善を推進している。

また、ICTを効果的に活用した日常授業の改善に向け、指導育成に取り組んだ様子を映像として収録した資料が模範的であるとして全道の学校に紹介されるなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。

(4) 北見市立三輪小学校 中尾 隼人 教諭

当該教諭は、児童自身にリアリティーがありクオリティーの高い本物の「問い」、「思いや願い」が生まれ、確かな「資質・能力」を育む、特色ある教育実践を重ね、地域に広く発信している。

令和5年度には網走地方教育研修センター講座「生活科&総合的な学習の時間」の講師として、自身の生活科及び総合的な学習の時間における実践発表をし、令和6年度には学校力向上に関する総合実践事業中核校公開研究会授業者及び令和6年度管内6研究団体夏季合同研修会発表者として、自身の実践を管内に広く普及させている。

さらに、令和4年度第31回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会オホーツク・北見大会において提言者を務め、自身の生活科及び総合的な学習の時間における実践を発表するなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。

(5) 北海道津別高等学校 鎌田 聖子 養護教諭

当該養護教諭は、管内高等学校学校保健研究会の熱中症予防に関する研究チームとして活動し、地域の暑さ指数(WBGT)別の熱中症発生状況について調査・取りまとめをし、学校での熱中症対策と対応について提言を行い、自校での実践に反映させている。

また、令和4年度からスクールカウンセラーによる1学年の全員面談を実施する仕組みを整え、取組の成果が道教委「令和5年度スクールカウンセラー活用事業実践事例集」に掲載されている。

さらに、北海道立特別支援教育センター研修講座の講師として、特別な教育的支援が必要な生徒の指導や支援について、道内高等学校の教諭等を対象に自らの取組を紹介するなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。

(6) 紋別市立紋別中学校 山谷 真太郎 教諭

当該教諭は、令和5年度北海道小・中学校教育課程改善協議会(外国語)に参加し、その内容を校内に還元するとともに、自校の教育課程の改善・充実に努めている。

また、当該教諭の学力向上に向けた実践等は管内でも優れた事例であり、令和5年度初任段階教員研修(4年次研修)の講師に選ばれ、初任段階の教員に研修を行った。

さらに、令和6年度第2回E B E協議会において実践発表者を務め、自校の組織的な授業改善や学力向上等に係る好事例について発表するなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。

2 初任段階表彰

(1) 網走市立網走小学校 山上 岳 教諭

当該教諭は、網走小学校授業づくり研修会において授業公開を行い、授業改善と自己課題の解決に努めているほか、令和6年度特別研修会においては、学校を代表して特設授業公開の授業者を務め、参加者の授業改善の視点共有に寄与した。

また、他の教員と協働してタグラグビークラブの顧問を務め、目指す子ども像の実現に尽力しており、令和5年度には網走小学校タグラグビークラブを全国大会に導くなど、地域の活性化に寄与している。

3 若手教職員表彰

(1) 北見市立光西中学校 米倉 完 教諭

当該教諭は、令和5年度網走地方教育研修センター主任研究員として、自身の社会科における実践や成果が研究紀要に掲載されるなど、教育実践を管内に広く発信している。

また、令和6年度オホーツク夏の教育セミナー（社会科）において講師を務め、自身の社会科における実践を発表するなど、自身の取組の成果を普及している。

さらに、第79回北海道教育研究所連盟研究発表大会（網走大会）兼第66回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会において全体発表者として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実及び子どもの成長を支える連携・協働体制の構築に向けた自身の実践を発表するなど、特色ある教育実践を全道に広く発信している。

(2) 網走市立網走小学校 山本 千聖 教諭

当該教諭は、研修主事として、育成を目指す資質・能力を明確にした全職員による日常の授業改善を推進するとともに、若手教員の育成にも力を注ぎ、指導・助言・相談に努めている。

また、授業づくり研修会において授業公開及び研修内容の発表を行い、高い評価を得るとともに、研修の足跡をまとめ、成果を発信している。

さらに、オホーツク地区生活科・総合的な学習教育連盟の研修部長として、管内教員の生活科や総合的な学習の時間の指導法に係る研究推進や、研修活動を通じた人材育成に寄与している。

(3) 北海道網走南ヶ丘高等学校 高橋 大輝 教諭

当該教諭は、令和6年度授業改善セミナー協力員として指導案検討会に参加し、令和4年度から新たに設けられた科目「公共」の授業における探究的な学びの在り方についての協議を行ったほか、授業改善セミナー（道東ブロック・地歴公民）において、道東地区の地歴公民教員とともに、科目「公共」の授業における探究的な学びの在り方についての協議を深めた。

また、北海道立教育研究所のプロジェクト研究「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」に研究協力者として参加し、「社会とのつながりを意識した探究的な学び」というテーマで授業実践を行い、その成果を実践事例集として作成し、周知するなど、自身の教育実践を広く全道に発信している。